

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 富屋 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	20人	算数	20人	理科	20人
第5学年	国語	23人	算数	23人	理科	23人

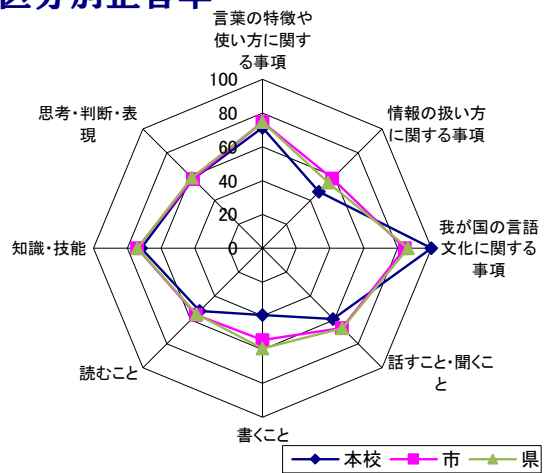
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立富屋小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	71.4	74.7	74.8
	情報の扱いに関する事項	47.4	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	100.0	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	59.2	66.7	66.9
	書くこと	39.5	54.3	59.3
	読むこと	52.6	55.6	55.2
観点	知識・技能	71.8	74.1	74.0
	思考・判断・表現	58.0	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

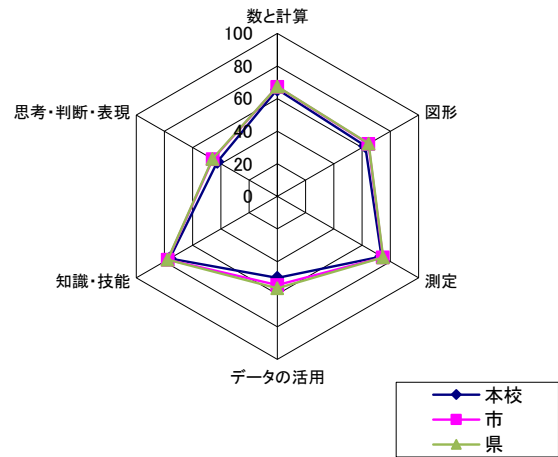
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は市の平均をやや下回っている。 ○主語と述語の正しい組み合わせを選択する問題の正答率は、市の平均を大きく上回っている。 ●漢字の書き問題の平均正答率は、市の平均をかなり下回っている。 ●ローマ字表記の理解に課題が見られる。	・朝の学習や家庭学習などで繰り返し書く練習をする他、AIドリルなどを活用して漢字の書きの定着を図る。 ・ローマ字表記の理解については、外国語活動で自分の名前をローマ字で書いたり、朝の学習などでミニテストを行ったりして、定着を図っていく。
情報の扱いに関する事項	●例文で用いられた語句の意味を選択する問題の正答率は、市の平均を10%以上下回っている。	・国語の学習において、日常的に国語辞典を使用することで語彙を増やしていく。
我が国の言語文化に関する事項	○漢字の部首を答える問題の正答率は100%であり、市の平均を大きく上回っている。	・新出漢字を学習する際には、部首を確認する指導を引き続き行っていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均を6%あまり下回っている。 ●司会者の話し方の工夫を選択する問題や、参加者の発言内容に着目して司会者の発言に関する内容を書く問題の正答率は、市の平均を大きく下回っている。	・話を聞く際には、話し手が伝えたい内容を考えながら聞く習慣がつくように、繰り返し指導する。 ・学級活動の時間との関連を図り、司会の進め方を体験を通して学ぶ機会を設定する。
書くこと	平均正答率は市の平均を大きく下回っている。 ●指定された長さで文章を書いたり、自分の考えを明確にして文章を書いたりする問題の正答率は、市の平均を大きく下回っている。特に理由や事例を明確にして書くことに課題が見られる。また、無回答の児童が4割程度いる。	・無回答率を減らすために、書くことに抵抗感をもつ児童には、文章の型を設定して書かせるなどして苦手意識を解消する支援を継続して行う。また、部分点がもらえる場合もあるので、「短い文章でもいいので、自分の考えを文字に変換し、まずは書く」という意識をもたせるようにする。
読むこと	平均正答率は市の平均をやや下回っている。 ○文章を読んで感じたことや考えたことを文章中の会話文で、話しているやり取りに適する選択肢を選ぶ問題や文章の内容の説明に合う選択肢を選ぶ問題の正答率は、市の平均を大きく上回っている。 ●登場人物の気持ちについて叙述に基づいて捉える問題の正答率は、市の平均を大きく下回っている。	・物語の学習において、場面ごとの登場人物の気持ちがかかる文を探して線を引いたり、全体を通しての登場人物の気持ちの変化を話し合ったりすることにより、読解力を高めていきたい。

宇都宮市立富屋小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.7	67.3	67.4
	図形	62.1	64.5	64.7
	測定	73.7	74.7	74.9
	データの活用	50.0	54.4	56.4
観点	知識・技能	76.3	77.6	77.8
	思考・判断・表現	42.6	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

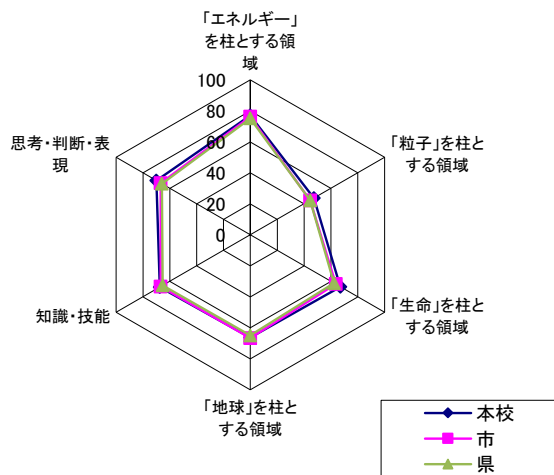
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○平均正答率は、県と市の平均とほぼ同じであった。</p> <p>○小数のしくみや表し方の理解を問う設問では正答率100%であった。</p> <p>○口を使った割り算の式に合う文章を選ぶ設問では市や県の平均正答率を15ポイント以上上回った。</p> <p>●分数の表す大きさを問う設問では市や県の平均を10ポイント程度、数直線上の目盛りが表す数の大きさを分数で表す設問では20ポイント程度下回った。</p> <p>●小数の大きさを「0.1がいくつ分か」と考えて文章で説明する設問では市や県の正答率を10ポイント程度下回り、無回答の割合も多かった。</p>	<p>・小数のしくみに関する設問では正答率が高く、十分理解が図られていると思われる。一方、分数のしくみに関する設問では正答率が低く、分数に関連する学習を行う前に復習することが必要である。</p> <p>・朝の学習や家庭学習等で練習問題に繰り返し取り組むとともに、個別学習において、計算方法について確認するなど、基礎基本の確実な習得を図っていく。</p>
図形	<p>○平均正答率は、県と市の平均とほぼ同じであった。</p> <p>○二等辺三角形の作図を行う設問では市や県の平均正答率を5ポイント程度上回った。</p> <p>●与えられた球の半径を利用して長さを求める設問では市や県の平均正答率を10ポイント程度下回った。</p>	<p>・設問と同様の問題を解く経験を増やすほか、具体的な日常生活場面を想定して課題を解決する経験を積み重ねる。</p> <p>・図形の基本となる「辺」「角」「頂点」「直径」「半径」などの基礎事項を身につけさせ、定規やコンパスを用いて図形を描いたり確かめたりする活動を重視し、図形問題の確実な定着を図っていく。</p>
測定	<p>○地図上の道のりを読み取り和を求める設問では市や県の平均正答率とほぼ同じであった。</p> <p>●その他の設問では市や県の平均正答率をやや下回った。</p> <p>●4kg:測れるはかりの針がさしている目盛りを読み取って重さを答える設問では正答率がやや低かった。</p>	<p>・数の量感を捉えられるようにするため、身近な日常生活の中にある「長さ」「重さ」「時間」などを常に意識させながら学習に取り組みさせていく。</p> <p>・はかりの目盛りを読み取る経験を増やし、数字の書かれていない目盛りでも読み取れるようにする。</p>
データの活用	<p>○棒グラフを読み取る設問では正答率が市や県の平均正答率とほぼ同じであった。</p> <p>●2つの棒グラフで1目盛りの数が異なることに注意しながら棒グラフを読み取る設問では市や県の平均正答率を10ポイント程度下回り、無回答率も10%程度であった。</p>	<p>・実生活上で様々なグラフを読み取って比較するなど、データを正しく読み取る機会を充実させていく。</p> <p>・棒グラフについては、理科や社会などの他教科においても資料として活用しながら学習を進め、グラフを読み取ったりかいたりする活動の機会を意図的に増やしていく。また、資料から考察できる内容を根拠をもって説明するなどの学習場面を多く設定し、定着を図っていく。</p> <p>・ひと目盛りの数や、縦軸の最大値、最小値など、問題を解く過程で分かったことをグラフに書き込ませるなど、段階的に解答していく手順について指導していく。</p>

宇都宮市立富屋小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	77.0	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	47.4	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	67.0	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	66.3	66.6	64.9
観点	知識・技能	67.5	66.8	65.4
	思考・判断・表現	70.0	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○「電気が流れるつなぎ方」「電気を流す物質と明かりがつく回路」についての設問では、市・県の平均正答率を大きく上回った。実際の回路を作成し、様々な物質をつなぎ実験を行って学習した成果と考えられる。</p> <p>○「大きい音と小さい音を比較したときのもののふるえ方」についての設問では、市・県の平均正答率を大きく上回り、100%の正答率であった。授業においてシンバルやその他の楽器を使って実験し、ものに触れる体験を通して理解を深めた成果と考えられる。</p> <p>●「糸をつまんだときの声の伝わり方」の設問では、結果の概要について短答式で解答するものであったが、市・県の平均正答率を大きく下回った。</p>	<p>・実験を通して体験的に学んだ内容については、しっかり定着できていると考えられる。今後も疑問、予想、実験、考察と一連の学習の流れに沿って学習を進めていく。</p> <p>・実験結果を分かりやすくまとめたり、資料を整理したり、根拠を示して説明したりすることを通して、実験の結果から得られた知識の獲得だけでなく、学習の過程で得た知識や技能を、汎用的に活用できるよう指導していく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○ものの重さについては、全ての設問において市・県の平均正答率を上回った。</p> <p>●「姿勢を変えて測った体重が同じである根拠」について記述式で解答する設問では、市・県の平均正答率は上回っていたものの、10.5%と低いものであった。実験結果の根拠について、文章化して説明することに課題が見られた。</p>	<p>・実験を通して体験的に学ぶ活動を大切にしていながら、根拠を示して説明したり、獲得した知識をもとに推測したりしながら、深い理解を図っていく。</p> <p>・学習した内容を、根拠を交えて説明したり文章化したりする力が身につくよう、重要語句を用いて自分の言葉でまとめて文章を考えるなどの言語活動を取り入れていく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>○「昆虫の生態」についての設問においては、おおむね市・県の平均正答率を大きく上回った。特に「トンボとの育ち方とモンシロチョウやカブトムシの育ち方の違い」についてや「クモが昆虫ではない理由」についての記述式の設問では、それぞれ89.5%、94.7%と、市・県の平均正答率を大きく上回った。昆虫の育ち方や体の仕組みなど、様々な種類の昆虫の共通点、相違点について、幅広く理解していることがうかがえる。</p> <p>●「虫眼鏡の正しい使い方」については、市・県の平均正答率を大きく下回った。手で動かせるものと固定されたものと、使用法が違う点について、混同して解答した児童が多かったと考えられる。</p>	<p>・植物や昆虫等を実際に育てる活動については、子どもの学びに大きな成果が得られていることから、今後も活動の充実を図り、全員が生き物との関わりをもてるような場や役割を設定し、支援していく。</p> <p>・観察や飼育が困難な生き物については、動画や写真などの映像資料や、タブレットなどのICTを活用し、学習の理解を深めていく。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>○「温度計の使い方」「日なたと日かげの地面の温度の違い」についての設問では、市・県の平均正答率をともに上回った。</p> <p>●「かげと太陽の位置の相互関係」「午後2時のかげの位置」「太陽の位置の変化(方位)」の設問では、市・県の平均正答率をともに下回った。太陽とかげの動きについて、方位と関連付けて理解することに課題が見られた。</p>	<p>・太陽やかげについて、方位を伴う観察に取り組む際は、観察用紙の向きや子どもの活動の目線、記録を記入する時の向きなど、子どもが整理・理解しやすいように統一したものを活用し、混同しないように配慮する。</p> <p>・気候、天体などの分野は、身近な生活の中にあるものが多いので、日々の生活体験と関連付けられる視点を多く提供し、日頃から科学的な現象に対する興味関心を高められるよう、学校生活の中で支援していく。</p>

宇都宮市立富屋小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の授業時間以外に、ふだんどれくらいの時間読書をするか」の設問に「30分以上」と回答している割合は、市の平均を10%程度上回っている。また、「1か月に5冊以上読む」と回答している児童の割合は、市の平均を大きく上回っている。普段から本に親しむ習慣が付いていることが伺える。今後も図書館司書と連携を図り、読書を奨励していく。

○「勉強していて、不思議だななげだろうと感ずることがあるか」の設問の肯定的回答は、市の平均を大きく上回っている。今後も、児童の疑問を大切に、楽しみながら学べる授業展開を心掛けていく。

○「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の肯定的回答は、市の平均を大きく上回っており、自己有用感を感じている児童が多いことが伺える。今後も、グループ学習や係・当番活動を通して、成功体験を重ねながら自己有用感を高めていく。

○「毎日同じくらいの時刻に寝ている」や「早寝早起きを心掛けている」の肯定的回答は、市の平均を大きく上回っており、規則正しい生活を送っていることが分かる。今後も家庭と連携し、健康的な生活が送れるように言葉掛けを続けていく。

○「自分には、よいところがあると思う」の肯定的回答は、市の平均を大きく上回っており、自己肯定感の高さが伺える。今後も褒める指導を心掛け、自己肯定感をさらに高めていきたい。

○「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」や「家でのかまりや約束を守っている」の肯定的回答は、市の平均を大きく上回っており、家庭で大切にされていることが伺われる。

●「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」に関する肯定的回答は、市の平均を大きく下回っている。疑問に思うことはあっても、その疑問が実際に調べることに繋がらないことが読み取れる。自主学習の進め方を再確認し、自分でテーマを決めて調べる学習を奨励していく。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」に関する肯定的回答は、市の平均を大きく下回っている。実際は調べ学習において本やインターネットを利用しているが、児童がその事実についてあまり認識していないと考えられる。今後は、総合的な学習の時間をはじめ様々な学習において本やインターネットを利用するとともに、情報機器を活用していることを認識するように言葉掛けをしていく。

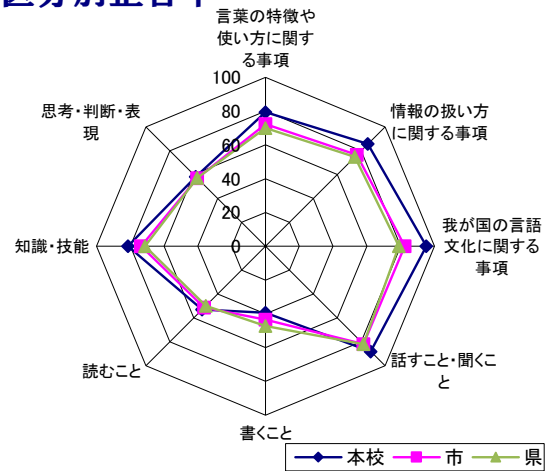
●「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、ゲームをするか」の設問に「2時間以上」と回答している児童の割合は、市の平均を大きく上回っている。養護教諭と連携を図り、懇談会や学年だより等において、長時間のゲームが健康に及ぼす影響について児童や保護者に啓発を図る。

●「学校のきまりを守っている」の肯定的回答は、市の平均を大きく下回っている。きまりを守っている児童を称賛することにより、きまりを守ろうとする意識を高めていきたい。

宇都宮市立富屋小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	79.4	72.3	70.0
	情報の扱い方に関する事項	85.7	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	95.2	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	88.1	81.9	82.0
	書くこと	39.3	43.5	47.2
	読むこと	53.0	51.4	49.8
観点	知識・技能	81.4	73.6	71.3
	思考・判断・表現	58.3	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

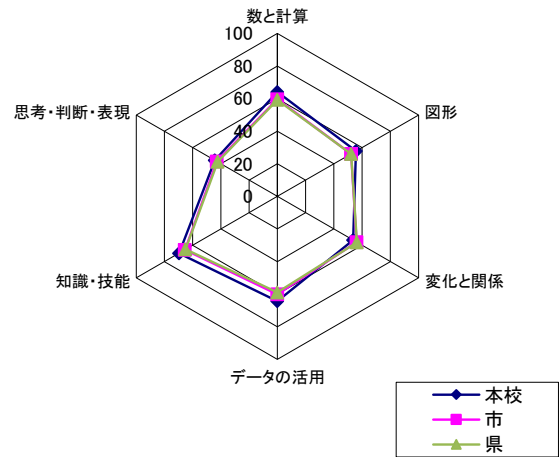
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、市や県の平均を上回っている。 ○漢字を読む問題では、100%に近い正答率だった。 ●連用修飾語に関する問題の正答率は、市の平均正答率とは同等だが、県の正答率を下回っている。	・漢字の学習については、朝の学習の時間や、家庭学習・Aドリルなどを活用してさらに定着を図っていく。 ・修飾語の問題についても、授業の中で意図的に取り上げて学習したり、練習問題を解いたりして、繰り返し学習する機会を作る。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市や県の平均を上回っている。 ○漢字辞典の使い方で、総画索引と部首索引の調べ方を問う問題では、市や県の平均正答率を大きく上回っている。	・漢字辞典を使って学習する時間を意図的に設け、定期的に漢字辞典を使って調べ方の定着を図る。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市や県の平均を上回っている。 ○ことわざの意味を問う問題では、95.2%と市や県の平均正答率より10ポイント以上大きく上回っている。	・ことわざや慣用句などについて、教科書に出てきた際には、その意味やどのような場面で使うのかを理解させ、自分の表現の中で、正しい使い方ができるようにしていく。 ・図書館を利用したり、朝の読書の時間を確保したりして、本に触れる機会を多く設け、語彙を増やしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市や県の平均を上回っている。 ○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える問題では、95.2%と市の平均を20ポイント程度上回っている。また、理由を挙げながら自分の考えをまとめる問題では100%の正答率だった。 ●意見の共通点に着目して、考えをまとめる問題では、市の平均正答率を下回っている。	・授業の中で話し合いをする際は、話し合いの視点を明確にし、自分の意見と友だちの意見を比較しながら話したり聞いたりするようにしていく。
書くこと	平均正答率は市や県の平均を下回っている。 ●指定された長さや2段落構成で文章を書く問題では、市や県の平均正答率を下回っている。条件を設定されて文章を書くことに課題が見られる。 ●内容の中心を明確にして事実と自分の考えを書く問題では、市や県の平均正答率を下回っている。また、無回答の割合が23.8%と県の平均に比べて高い。	・文章を書くことに抵抗がある児童がいるので、授業や自主学習等で文章を書く機会を多く設けるようにする。その際、テーマを絞ったり段落を設定したりして、条件に合わせて文章が書けるようにする。
読むこと	平均正答率は、市や県の平均をやや上回っている。 ○物語文の内容を読み取り、登場人物の気持ちを捉えたり、気持ちの変化について具体的に想像したりする問題では、市の平均を上回っている。 ●説明文の叙述を基に、文章の内容を捉える問題では、市や県の平均を大きく下回っている。	・説明文の学習では、大切な言葉や内容のまとまりを考えて読み取り、大切な言葉を落とさないように段落を要約する学習を繰り返して、文章の内容を理解させるようにする。

宇都宮市立富屋小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	64.1	59.7	59.2
	図形	55.6	52.1	52.1
	変化と関係	53.6	56.1	56.3
	データの活用	64.3	60.1	58.9
観点	知識・技能	69.7	65.5	65.1
	思考・判断・表現	44.3	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

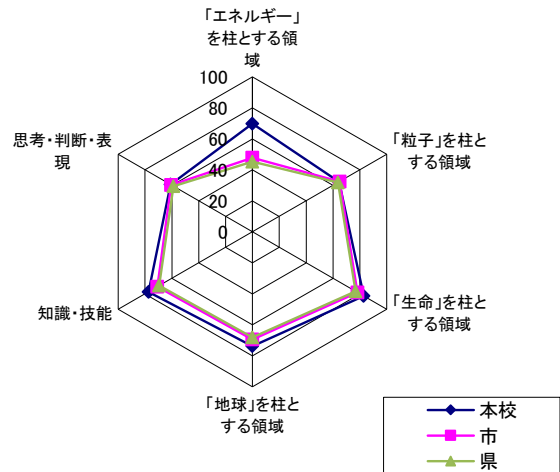
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市や県の平均を上回っている。</p> <p>○小数第一位÷整数＝小数第一位の計算ができるかどうかをみる問題は市や県の平均正答率を大きく上回った。</p> <p>○式の意味を正しくとらえ、言葉で説明することができるかどうかをみる問題は市や県の平均正答率を大きく上回った。</p> <p>●小数の大きさを理解しているかどうかをみる問題</p>	<p>・小数の大きさを比較する際は、小数を構成する単位に着目させ、数直線の目盛りを読んだり位取り表を活用したりしながら、大きさを捉えられるよう指導していく。</p> <p>・小数の学習全般を通して、既習の考え方を想起させながら式や図を用いて課題に取り組めるよう、指導していく。</p>
図形	<p>平均正答率は、市や県の平均を上回っている。</p> <p>○180度より大きい角の大きさの求め方を理解しているかどうかをみる問題は市や県の平均正答率を大きく上回った。</p> <p>○三角定規の角度を理解しているかどうかをみる問題は市や県の平均正答率を大きく上回った。</p>	<p>・三角定規の角の大きさや、分度器の使い方など、基礎的基本的な図形学習の内容を定期的に確認し復習させることで、確実な定着を図る。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市や県の平均を下回っている。</p> <p>○数量の関係をとらえ、正しく表された図を答えることができるかどうかをみる問題は、市や県の平均正答率を上回った。</p> <p>●2つの数量の関係を、もとの大きさの何倍になったかを考えて説明することができるかどうかをみる問題は市や県の平均正答率を下回った。</p>	<p>・割合の学習においては、もとにする量とそれを1とみたときのもう一方の量に当たる数がどれかを、文章の中から正しく見つけることや、問題の場面を線分図や数直線などの図に表し、求め方を考える機会を設けることで、学習の定着を図る。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市や県の平均を上回っている。</p> <p>○2つの折れ線グラフから、必要なことを読み取ることができるかどうかをみる問題は、市や県の平均正答率を上回った。</p>	<p>・今後も継続的に、グラフや二次元表を読み取る学習活動を意図的に取り入れ、データを二つの観点から分類整理する仕方をより一層定着させる。</p>

宇都宮市立富屋小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	69.8	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	64.5	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	82.9	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	73.8	69.5	68.1
観点	知識・技能	77.4	70.8	69.5
	思考・判断・表現	61.1	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○並列つなぎの名称、検流計の針のふれ方については、市、県の平均回答率を大きく上回った。</p> <p>●電流が大きく流れる回路を理解し、電球が明るく光る回路を推測する問題では、複数ある正解をすべて見つけ出すことに課題が見られた。</p>	<p>・実験では、めあてを明確にし、予想を立てて実験を行い、結果をまとめ、考察をするという学習の展開を大切に指導することで、科学的な思考力を高めていくようにする。</p> <p>・結果や考察を言語化することを丁寧に指導し、内容の理解と定着を図っていく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○水や空気・金属の性質についての知識は、市や県の平均と同等または少し上回る正答率であった。</p> <p>●性質や体積変化について別の実験方法を考えたり、実験の結果を身の回りの現象と結び付けて考えたりする問題に対しては、市、県の平均を大きく下回った。</p>	<p>・学習した知識を活用して、推測したり根拠を示したりできるようにするため、条件を変更して考えたり、身のまわりの現象と結び付けて考えたりする活動を意図的に取り入れ、学習内容の理解を深められるようにしていく。</p> <p>・正答率が高い設問については、授業の実験で扱った学習内容が多く、体験的な学びを通して知識の定着を図った成果と考えられる。今後も児童の体験を大切にしていきたい。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>○四季それぞれの動植物の様子についての正答率は、県・市の正答率より上回った。</p> <p>○関節の名称を答える問題や腕を動かしたときの筋肉の様子についての理解もよくできている。</p> <p>●桜のスケッチから四季を推測し、変化の順番を回答する問題の正答率は、全体としてあまり高くなく、本校は、県・市の正答率を少し下回った。</p>	<p>・観察や実験を重視するとともに、ICTを活用した学習を取り入れることで、映像資料をもとに具体的な自然現象を想起させながら、知識の定着を図っていくようにする。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>○満月の名称や星の明るさと色については、95%以上の回答率であった。方位磁針の使い方や月の動きについての正答率は、それほど高くはないが、市・県の平均を上回る結果であった。</p> <p>●水のゆくえに関わる正答率は、平均で60%であった。市や県の平均正答率を上回っているものもあるが、調べて分かったことからその関係性をまとめたり、自然事象と結び付けて考えたりする回答率は、低い結果であった。</p>	<p>・名称や基本的な決まりについては、回答率がとても高かった。今後も基礎的な知識の習得について丁寧な指導を継続していく。</p> <p>・生活の中で体験している身近な現象と実験結果を結び付けて考える機会を多く設け、目の前の実験結果から現象についての理由も併せて理解できるよう指導していく。</p>

宇都宮市立富屋小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の授業時間以外に、ふだん(平日)どのくらい読書をするか」の問いに、30分～1時間と回答している児童の割合が多い。また、1か月に読んでいる本の冊数は、11冊以上と回答している児童が33%と一番多い割合で、市の割合を大きく上回っている。朝の読書の時間が定着し、落ち着いて読書をする習慣が身につけてきているので、今後も司書教諭と連携を図りながら読書の奨励をしていけるようにする。

○「クラスは発言しやすい雰囲気」「自分の考えや意見を発表することは得意」「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」の問いに対する肯定的回答が、市の平均を大きく上回っている。今後も自信をもって自分の意見を発表し、活発な意見交換ができるよう、授業や学級活動等で話し合い活動の場を意図的に設定していくようにする。

○「自分にはよいところがある」「自分のよさを人のために生かしたいと思う」の問いは、全員が肯定的回答であった。また、「将来の夢や目標をもっている」の問いに対する肯定的回答は95.2%と、市の割合を大きく上回っている。キャリア教育や学校生活の多くの場面を通して、一人一人を大切にしながら指導を継続していき、自己肯定感が更に高められるようにする。

●「授業の最後に学習したことを振り返る活動を行っている」「ノートには、学習のめあてとまとめを書いている」の肯定的回答が、市の割合を下回っている。これまで以上に、授業のねらいを明確に提示し、振り返りの時間を意図的に確保して学習のまとめを行うようにする。

●「早寝、早起きを心がけている」の肯定的回答が市の割合を下回っている。また、家庭でのテレビや動画を見る時間は、2～3時間と回答する児童の割合が、33%と市割合よりも高かった。規則正しい生活が送れるよう早寝早起きを奨励し、家庭との連携を図りながらテレビやスマートフォン等の使い方を指導していくようにする。

宇都宮市立富屋小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
多様な視点から課題について考えることができる協働的な学習の指導の工夫	目的に応じたグループ学習や視点を明確にした話し合い活動を、教師が意図的にコーディネートする。	「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の質問への肯定回答率は、4・5年ともに県や市の割合とほぼ同等か上回っている。
分かりやすく伝える力や、正確に受け止め学び合う力を育てる工夫	一人一人の思いや願いをもとに、共通の視点をもって話し合うことができるよう、事前に自分の考えを書かせることで、伝える力の向上を図る。	「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の質問への肯定回答率は4・5年ともに県や市の割合とほぼ同等か上回っている。反面「自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」の肯定回答率は4・5年ともに県や市の割合とほぼ同等であり、約半数の児童が、書くことへの抵抗を感じていることが伺える。